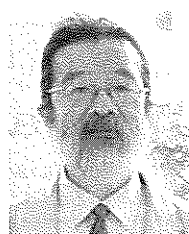


読むことの振り付け師



松枝 到

翻訳書に限らないが、本を読んでいるカタカナ語にぶち当たり、はて、なんの意味だったかなと悩むことがある。ある翻訳書を読んでいたとき、なかに「コレグラフィー」という語が注釈なしで飛び出してきた。前の方に説明があったかと見直してみたが見つからない。残念ながら索引のない本だったし、電車のなかでもあり、とりあえず電子辞書で当てずっぽうに引いてみた。しかし、わからない。研究室にたどり着き、さっそく検索エンジンにカタカナを打ち込むと「もしかしてコレオグラフィー？」と出た。とたんに疑問は氷解。chorégraphieのことだった。すなわち踊りの「振り付け」。フランス語では確かに「コレグラフィー」なのだが、一般的には英語のchoreographyの方が通用している。気がつけばなんてことないのだが。

ch-ではじまる語なので、調べるとやはりギリシア語源。合唱歌舞団の踊り(khoreia)に由来するものようだ。しかしカタカナで「コレ」といわれると「col-」というラテン的な綴りに引きずられてしまう。するっと思いつけるものではない。とはいえ、これが経済学の専門用語だったら、はなから投げ出していただろう。なんとなく聞いたことがあるような、というレベルなので、もたえるのである。

もちろんこうしたことは、別の次元にもある。入試だ卒業判定だという時期になると、立場上、かなりの数の固有名詞と向きあうことになるのだが、いかにも不思議な読みの姓名がある。特殊な文字の例は措いておくが、むしろありふれた字で読みに苦しむものに興味が湧く。たとえば「大」と書く名前に当てられた読みに、まさる、ひろし、はじめ、などがあつた。もちろん調べればこうした用例は多いのだろうが、現場

では読みに苦しむことも少なくない。扇緑を「せいら」と読ますなどは、最初は面食らうものの、一度わかれば悩まない。意味わかんないけどそう読んでほしいのね、と了解できた。もちろん固有名には独特の世界があるので、一概にどうともいえないのだが、アルファベットの世界にはないおもしろさではあろう。

しかし、まあ、読書を一端立ち止まらせる語との出会いは、とても貴重な体験である。というか、すべての単語について、ぼくたちはそうした体験を持っていたはずだったのに、いつのまにかその出会いの衝撃を忘れ、あたりまえの風景にしまっている。小学校のころだったか、初めて学校でローマ字を習い、自分の名前をアルファベットで書けた喜びに舞いあがり、家に帰って父に「ぼく、ローマ語を習ったんだ」といった。すると父は笑って母に「聞いたか、この子はもうローマ語ができるんだそう」といった。そのときは意味がわからなかったが、くそっ、まだぼくは「ローマ語」をものにしていない。

ある人の文章に「肩越しに読む」という一句を見つけた。なにか古典の文献を読んでいるとき、その一語一語をたどっているぼくの背後から、肩越しに、さまざまな文化・文明を生きた無数の注釈者・解釈者たちがぼくと同じ語をたどり、あれこれの読みを投げかけてくる。誰かのいつかの小さな注釈がぼくを語の前で立ち止まらせる。そしてぼくはより大きく多様なテキストを「顔を上げて読む」(ロラン・バルト)ことをはじめるのだ。これこそが読書の醍醐味であるというのなら、ぼくをひととき立ち止まらせたカタカナ語にも感謝すべきなのかもしれない。

(まつえだ いたる・和光大学教授)

Genius English Course I・II Revised

What a Collection of Amazing and Amusing Stories!

同時・放送通訳者
石黒弓美子



◆Human brains and stories

20年ほど前のことになりますが、若い人たちに哲学の魅力を伝えたいと『ソフィーの世界』という哲学史の入門書を書いた、ヨースタイン・ゴルデル氏の通訳をしたことがあります。ノルウェーの高校で哲学の教師をしていたゴルデル先生は、何とこの本を「知識」という意味を持つソフィーという名の女の子を主人公にしたファンタジー仕立てのミステリー小説にしました。

ベストセラーとなったこの本の日本語版の出版にあわせて日本を訪問されたゴルデル先生の通訳をしていて印象に残った言葉が今でも忘れられません。それは、“Human brains are made to understand stories the best.”（人間の頭脳は物語をいちばんよく理解するように作られている）という言葉でした。*Genius English Course I・II Revised*（以下 *Genius I・II*）を読んで、ゴルデル先生のこの言葉の意味を、改めて深くかみしめました。

Genius I・II には、驚くような、そして楽しくもまた感動的な物語が次々と登場して、学習者は英語の世界を探訪しつつ、国際世界への目を開くことができます。感動は、私たちを動かす原動力です。特に若いころの感動は、私たちの視野を広げ、行動へと突き動かす大いなる driving force です。コミュニケーションの道具としての英語に対する感動が筆者を今の通訳という職業へ導いてくれたように、高校生によっては、これらが自分が進みたい道を開く突破口にもなってくれ

ると思います。

◆Discovery after discovery

Genius I・II の各章は、「そうなんだ！」という発見に溢れています。例えば、I-1 The World of Street Performers を読むと、日本人としての自己の再発見があるでしょう。II-2 The Functions of Language では、「言語ってそんな機能があるんだ」ということを教えられます。また、I-8 Ant Communication や II-9 Sensitive Plants には、「互いにコミュニケーションをとったり、感情を備えているのは人間だけではないんだ！」という驚きの発見が待っています。

そのほかにも、自転車や和紙のこと、ロック・クライミングや南極大陸横断を試みたシャクルトン隊の物語も、驚きとともに心に残ります。

◆What a wonderful world!

この世界には悲しいことがたくさんあるけれど、世の中捨てたものではない、僕だって、私にだって、世の中の役に立つ力があるはずだと、勇気を与えてくれる物語もたくさんあります。

「本当に貧しいとはどういうものなのか」に目を開かせてくれると同時に、人間の思慮深さと教育への熱意がいかに人を動かすかを思い知らされる I-3 Proud Panther. 物語のタイトルと添えられた写真が、読者の想像力を少女の歩くアフリカの長い道のりに飛翔させます。

さらには、思いやりと智恵と決意とで、貧困撲



滅の道も開けることを教えてくれる II-4 の The People's Bank。数年前グラミン銀行のユヌス氏が日本を訪れ、初めて通訳をする機会をいただいたとき、『「グラミン」とはバングラデッシュの言葉で『農村』という意味なのです』と説明してくれたその優しい顔には、その眼の奥に「この決意こそが、成功の秘訣なのだ」と感じさせる強い光があったことを思い出します。

そして、サッカーボールを目にしたら、思い出さずにはいられなくなる I-7 の Child Labor。この文章を読んだ高校生は、4年ごとのワールドカップで興奮する度に、児童労働の問題解決に寄与したいと強く願うことでしょう。実際にそのために行動を起こしてくれる若者も増えるに違いありません。

また、I-5 Easy Japanese に、II-5 Universal Design、I-9 の My Brother's Keeper に、I-10 I Will Be There for You は、いずれも「真の多様性の尊重とは何か」「本当の思いやりとは何か」を教えてくれます。人の立場に立つということは、どんなことなのか、具体的に示されています。

1つ1つの課が、自分の恵まれた環境や周囲の人々に感謝せずにはいられない事実を思い起こさせ、「自分にもできることがあるはず」という行動に、読者を突き動かさずにはおきません。

人生の楽しさを伝えることも忘れられていません。I-6 の Pink Bow Tie、リーディング教材として出てくる The Vicar's Pleasure や Table for Two は、最高におしゃれで楽しい物語です。

筆者は *Genius I・II* のどの文章にも、編集に携わった方々の対象学習者への「愛情」と教育への強い「熱意」を感じます。世界にはこんなことがある、人生にはこんなに大切なことがある、それを知ってもらいたい。そして自分の人生の幅を広げ、奥行きを深めてもらいたい。そして世の中の役に立てる人間に育ってほしい。それこそが、学習者の本物の幸せにつながる道だとの信念を感

じないではいられないテキストブックです。

◆Story-telling is one of the best ways to learn

筆者は、このテキストブックを読みながら、これまであげなかった課を含めて、どの文章も、実にリズム感に富んだ分かりやすい文章で書かれていると思いました。実際に声に出して読みあげてみましたが、どれも、誰かに読み聞かせたいほどリズムカルな筆づかいです。そこで、最後に一つ提案したいのは、ぜひ、これらの文章を声に出して朗読し、あるいは暗記して語りにしてみてもどうかということです。

朗読や語りに、文章をよく理解することが大切です。それぞれの文が、どのような思いで書かれたのか、深く考察し理解できて初めて人の心を動かす語りができます。声に出して語ることで、自分の理解が、適切な音声表現として表出しているかどうかわかります。いろいろな声で、いろいろな口調で声に出して読む、できれば自分の言葉のように語ることで、さらに文章の意味の理解が深まります。

また、人前で語るということには、語彙や語順を覚えるだけでなく、自分の殻を破るという大きな効果があり、語り手の自信につながります。実際にやってみると、とても楽しい経験です。

はっきり言って、最初はみんなへたくそです。しかし、根気よく続けることで、少しずつ自信をつけ、最後には大きな変化が期待できます。筆者は実際に語りをある大学の public speaking のクラスで実践していますが、毎回指導をしながら、よくなった点を指摘し、「よくなった、よくなった」とくりかえしほめたたえます。すると、言葉の力も手伝ってか、学生たちは見違えるようになり、自信を深めていきます。*Genius I・II* の素晴らしい物語たち。ぜひ、語って聞かせてほしいと思います。

(いしぐろ ゆみこ・同時/放送通訳者)

Genius English Course I・II Revised

言語の姿を忠実にとらえた教科書

言語学者
町田 健



◆全体的な印象

英語の教科書は、当然のことだが英語の文章を用いて、文法や語彙を学習させることを目的として作られている。また、私が高校生の頃は、発音や聞き取りは、ほとんどか全く重視されていなかったが、近年の英語教育では必須の学習項目として位置づけられているため、この側面についての配慮もしなければならない。

Genius English Course I・II Revised (以下 *Genius I・II*) は、この観点からすると、高度に目的を達成している教科書だと言える。たとえば文法・語彙の側面から見ると、各章で解説される文法項目を反映する英文の箇所には、その旨が記されていて、学習者と教師双方にとって便利な配慮である。

英語の教科書に載せる文章は、できるだけ英語が使用される場面の全体的な姿を反映した方がいい。したがって、文学や思想だけでなく、人間が構成する社会の多様な状況を主題とするものであることが望ましい。その点 *Genius I・II* は、民族や言語の多様性、社会問題、生活の実体験、冒険とミステリーなど、実に様々な主題についての文章を提供してくれている。主題が多様であれば、語彙もそれに応じて多様になるのは当然だから、この点でも、教科書としての目標を正しく実現していると言える。

外国語を適切に理解し運用する能力を身につけるためには、伝統的には文法の理解が重要だとされてきた。確かに文法に従わなければ、理解可能

な文を作ることはできない。言語研究者たちの最も重要な関心事も、文法に関わる問題の解明だった。私も文法のことをあれこれ考えるのが好きなのだが、英語を実際に話したり読んだりするときには一番重要なのは、結局のところ語彙力だと、最近では思うようになった。

英語の本を読んでいて、知らない単語に出くわすのは普通のことだが、この単語の意味を前後の文脈から正しく推測できることはあまりない。だから、文章を理解するためには、結局のところできるだけたくさんの単語を覚えておく以外の方法はない。英語を話す場合であれば、自分が伝えたい事柄を表現するために使う適切な単語を、即座に思いつかなければ、会話など全くもってできるはずもない。だから、文法はもちろん大切だが、語彙力を身につけておくことが、文法の知識を活用して英語を運用するための、まず第一の前提だと思う。

Genius I・II で学習する語彙は、高校生向けだからそれなりに数が限定されるのは当然として、十分に多様な側面で用いられるものであり、語彙を豊富にするための、効果的な基礎を提供しているものと考えられることができるだろう。

◆文章の主題

Genius I・II に掲載されている多様な主題に関する文章群には、全体を通して読んでみると、一定の傾向がある。それは「弱者と自然に対する配慮」である。貧困や戦乱に苦しむ人々、障害をもつ人々、満足に教育を受けられない子どもたち



ち、環境保護運動に取り組む人々などを対象とする文章が、この教科書の大きな部分を占めている。現代社会が直面する問題を取り上げる姿勢には、この教科書の人間と環境に対する真摯な考え方を窺うことができる。それは確かに、地球に生きる人間としてあるべき姿の1つだろう。

こういった真面目な問題を、英語で考える機会をもつことが大切なのは言うまでもない。学校で使われるからには、こういう真面目な話題も大切だろう。ただ、人間がいつも社会の重要な問題のことばかり考えて生きているわけではないことも、同様に確かだ。私のようなお気楽人間にとっては、映画やスポーツ、お笑いなどの娯楽、名所を巡る旅行（鉄道旅行ならなおよい）や海山での遊びなど、気楽に明るくなれるような話題もほしいところだ。Genius I に実際に取り上げられている Lesson 2 の料理の話題や、Genius II の Lesson 8、南極探検を主題とする文章などであれば、やはり読んでいて楽しめるし、学習者の意欲も高めることができるのではないかと思う。

◆言語の問題

もちろん、文学や思想という、伝統的に「現代国語」で取り上げる対象だった主題の文章も、何と言っても、言葉でなければ実行できない人間の精神的活動なのだから、1つや2つはあっていいかもしれない。その点では、「言語」を主題とする文章が掲載されていることは、言語学を研究している私にとっては嬉しいことだった。

Genius I にある Easy Japanese（やさしい日本語）の話は、語彙の範囲を限定し、構文もできるだけ単純にする方法で、日本語を母語としない人々にも分かりやすい日本語表現を作るというものだ。この方法であれば、日本語を変質させることなく、容易な理解を実現させることが可能になる。あまり考えたことがなかった話題だったので、興味深く読んだ。このやさしい日本語を、災害時などに実際にうまく使いこなすためには、母

語話者であっても、相当に高度な日本語力を必要とするかもしれない。

Genius II には、意味の伝達以外に言語が持っている様々な機能について解説する課がある (Lesson 2: The Functions of Language)。ヤコブソンという多方面にわたって重要な業績を残した言語学者が提示した機能であり、言語学者にはよく知られている。言語の最も重要な機能が意味（事柄）の伝達であることは言うまでもないし、高校生も言語とは意味を伝達する道具だという言語の基本的定義については、すでに知っていることだろう。しかし、「こんにちは」のような挨拶のための表現が、事柄の伝達ではなく、自分が相手に対して関心を持っているということを表す「交感的機能」を持っていることなどは、やはりこのような文章を読むことで気づかされるものである。その意味で、この課は、どの言語にも共通だが、意外に意識しない側面を言語が持っていることを教えてくれる興味深い内容である。

Genius I・II が取り上げている文法項目は、基本的に重要な項目はすべて学習できるようになっている。“There being no bus stop”のような、現代の英文ではまず使われることのない独立分詞構文を取り上げているのは、大学入試を意識していることかもしれない。また、伝統的に「付帯状況」という正体の分かりにくい用語で呼ばれてきた、新たな事柄を付け足す働きをする分詞構文については、指導資料を参考にきちんと指導してほしいと思う。

もう1つ、命令や提案などを表す動詞や名詞に支配される that 節中に現れる動詞の原形は、この教科書では should の省略だと解説している。確かに、仮定法は過去と過去完了だけにしておいた方が簡単で理解しやすい。その上に仮定法現在までも加えるのは、学習者の負担を増やすだけだ。多分この理由で仮定法現在には教えないのだろう。教育的方策として理解できる。

（まちだ けん・名古屋大学教授）

Captain English Course I・II Revised

この教科書で使える英語を 身につけよう

プロテニスプレーヤー

杉山 愛



◆教科書っぽくない教科書

Captain English Course I・II Revised (以下、*Captain I・II*) を読み、とにかく読んで楽しめる文章が集められていること、そして、それをいろいろな角度から習得できるように工夫された教科書であるという印象を受けました。絵や写真も豊富で、面白く読めるのはもちろん、その後に理解を深めたり、内容についての質問をリスニングしたり、さらには自分の意見を取り入れながらディスカッションしたりというところまでできる、とても構成が練られた教科書だと思います。

取り上げられた題材で特に印象に残ったのは、*Captain I* の Lesson 4, Be Your Own Captain!, Have a Break 3 の Great Speeches, Reading の The Best Lesson などです。Lesson 4 の最後、KONISHIKI さんの “You are the Captain of your life.” は心に残る一文でしたし、The Best Lesson はとても中味が濃く、読み応えのある文章でした。Great Speeches は、長さも手ごろなので高校生でも全文を覚えられないでしょうか。覚えるだけの意味や価値がある文章だし、きっと将来に使う機会があるのではないかと思います。

その他、目の錯覚や食文化、ボランティア、友情と恋愛の問題など、引き込まれて思わず読んでしまう話題ばかりで、“いかにも教科書” という使えない文章ではなく、会話文なども、そのままふだん使えるような文章が多く盛り込まれているという印象を受けました。

さらに、楽しいだけでなく、*Captain I* の最後の Lesson は War of the Landmines という地雷の話です。おそらく日本人は、外国では今でもこのような戦争の被害が続いているということさえ知らない人が多いのではないかと思います。知ることによって海外に目を向けることにつながります。教科書によってそれが可能になるのは、素晴らしいことだと思います。

◆意見を持ち、それを表明すること

教科書のなかで、読む一方ではなく、Communication 1 「有名人になって自己紹介しよう」や Communication 2 「構想をねってスピーチしよう」(ともに *Captain I*) といった活動に多くのページが割かれていることも、とてもよいと思いました。

日本人は、意見を発信したり、ディスカッションしたりすることが苦手です。私の経験を振り返っても、選手時代のプレイヤー・ミーティングで、他の国の選手は拙い英語でもどんどん質問するのに、日本人はシャイでその場では発言できず、あとでこっそり個別に質問したりしているのを見て、歯がゆい思いをしていました。私自身も、最初は難しくてなかなか堂々と意見を出したりできませんでした。そういう場に身を置くことで、すこしずつ慣れて、発言できるようになりました。学校のクラスでそのような立場を経験することや、そういう場を練習することを重ねると、将来の役にも立つし、日本人も成長していけるのではないのでしょうか。そのためのステップと



して、このような英語でのコミュニケーション活動はとてもよい刺激になると思います。

日本は、譲ったり一步下がったりということが美德とされてきた文化で、それはもちろん悪いことではありませんが、世界の中で日本人が生きていく上では、とてももったいないと思います。海外の会議などでは、大した意見ではなくてもアピールがうまくて評価されたりする面もあります。特に今のグローバル社会の中では、これでは日本は置いていかれるのではないかという印象があります。一概に、いつでも自分を押し出すことがいいわけではないけれども、臨機応変に主張するところは主張する、といった態度が、これからますます必要になってくるのではないのでしょうか。

◆語学が引き出すもの

ただ、そのような自己主張をするといっても、そのときには英語の形態や文の形式を身につけておくことが重要になってきます。英語には自己主張しやすい文型や形式がたくさんあります。基本的な英語の文の成り立ちは単純で、文型や動詞の変化などをある程度覚えてしまえば、日本語のようなまわりくどい言い回しや、ややこしい敬語などを気にする必要はないので、しゃべりやすい言葉なのではないかと思います。

その意味で、*Captain I・II* は、レッスンごとに現在形、過去形、現在完了形、などといった文法項目を習得できるので、とてもわかりやすいと思います。これだけの文章をしっかりと習得すれば、相当しゃべれるようになるはずです。この教科書にある英語の“型”をきちんと身につければ、自分の意見を伝えることも、コミュニケーションすることもできるようになると思います。

語学力が引き出すものというのはやはりとても大きくて、私も日本語をしゃべるときと、英語をしゃべるときではメンタルやテンションが違います。海外の選手とは対等に強気にやり合うこともあります。日本人が相手だととなかなかそうはい

きません。それは言葉によって変わるわけです。やはり、英語のストレートな、スパーンと斬り込むような形態によって引き出されるものだと思います。

◆英語が話せて損はない

私は、自分の好きなテニスが世界を舞台にしている英語が絶対的に必要で、話せないというのは考えられなかったもので、そういう意味では英語学習に対するモチベーションが高かったのですが、高校生の多くにとって、動機付けが難しいというのは理解しています。国内だけが活躍の場だという職業もあれば、そういう将来を描いている高校生もいると思うし、それは決して悪いことではないと思います。

でも私は、英語をしゃべれて損はないよ、と言いたいです。

今は、地球の裏側でも1日あれば行ける時代です。今のこの世に生まれてきて、これだけ世界が小さくなっているのに、英語がしゃべれないというのはもったいないと思うのです。チャンスがあれば、海外にどんどん出て行ってほしいと思うし、出ていったらきっと英語が話せるようになりたいと思うはずです。英語が話せれば楽しみも増すし、いろいろな人に出会って広い世界のユニークな考え方にも触れられるし、何より自分自身の世界がぐんと広がります。

先生がされる学校の授業というのも、すごく影響力が大きいと思います。生徒が将来英語を使えるように、英語が生徒の将来に役立つように、日々の授業を工夫していただけたらいいな、と思います。使える英語ということ言えば、まさに *Captain I・II* はそんな題材の集まった教科書なので、ぜひ活用していただきたいと思います。

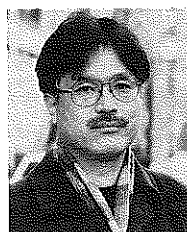
(すぎやま あい・プロテニスプレーヤー)

Captain English Course I・II Revised

工夫満載の楽しい教科書

翻訳家・エッセイスト

井上一馬



◆何事も「つかみ」が肝心

どうせ学ぶなら、楽しく学ぶに越したことはない。

それを実践しようとしてさまざまな工夫を凝らしている教科書、それがこの *Captain English Course I・II Revised* (以下 *Captain I・II*) のシリーズではないかという印象を私は持った。

漫才や落語に限らず、何事も「つかみ」が肝心であるとはよく言われる。「中学校で英語に苦手意識を持ってしまった生徒にも、もう一度、英語って楽しい、もう一回ちゃんと勉強してみようかなと思ってほしい」という願いを込めて作られたという、この教科書にとってはなおさらである。

その点でまず、この教科書は素晴らしい。

SMAP (スマップ) が歌って国民的なヒット曲になった「世界で一つだけの花」が、最初のレッスンに英訳されて載っているのである (I-1 Not No.1 but the Only One)。

「その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」「NO.1にならなくてもいい。もともと特別な only one」というこの曲の歌詞は、どれほど多くの人々に支持されたことだろう。

大半の高校生は、このレッスン1を見て、「おっ」と興味を引かれるに違いない。そして、そこから先へと進んでいける。

◆さまざまな工夫に感心

各レッスンの内容にも、大いに工夫が凝らされている。

I-3 It's Yummy! では、メキシコの代表的な料理タコスの作り方が紹介され、I-8 Volunteering in Thailand では、タイで車椅子の修理をするボランティア活動を行っている栃木県の工業高校の生徒たちの活動が紹介される。

高校生は、同じ高校生がやっている活動に大いに興味を持つだろう。

I-6 Is Seeing Believing? の、剥いたりんごを黒い皿に載せたときと白い皿に載せたときではどちらが美味しそうに見えるかといった、目の錯覚の話も面白かった。

II-2 Cybercitizens in Cyberspace では、インターネットの使い方やマナーが英語で学べる。「コピペ」が copy and paste のことだとわかる。

さらに、II-7 Life in Space では、現在の子どもたちにとって人気の職業になっている宇宙飛行士 (土井隆雄さん) が宇宙での生活について語っている。

II-9 Don't Give Up では、今も波乱万丈の人生を生きている、ベストセラー『だから、あなたも生きぬいて』の著者・大平光代さんの生き方に触れることができる。

また、*Captain I* のリーディング教材では、日本でも根強い人気を保つ (私の好きな) 映画『ミュージック・オブ・ハート』の主人公ロベルト先生 (映画ではメルル・ストリープが演じた) の活躍が、ひとりの生徒の口を通して語られる。ロベルト先生は、バイオリンの課外授業を通じて、ニューヨークの貧しいイースト・ハーレムの小学校に新風をもたらした。



どの話題も up to date であり、高校生の興味を引きつけるに違いない。単に英語を学ぶだけではなく、英語を通してさまざまなことを学んでもらおうとする編集者の意図が強く感じられた。

「息抜き」(Have a Break!) のコーナーにも、昔ながらに、マーティン・ルーサー・キングやマザー・テレサの心をうつスピーチが載っているページだけでなく、運勢占いや英語のすごろくに挑戦するページも用意されていて、ここにも工夫の跡がうかがえる。

Communication のページには、「有名人になって自己紹介」をしてみるコーナーや、Eメールで友だちの悩みに答えるコーナーもある。構想を練って自分でスピーチを考えてみるページもある。

このようにこの教科書には、何とか英語に興味を持ってもらおうという工夫の跡が至るところに見られるのである。それに私は感心した。

◆ジョン万次郎の辞書に感激

中でも私がとくに感心したのは、*Captain I* の Warm-up のページに載っている「ジョン万次郎の発音教室」。そこには、150年も前に彼が苦勞して作った英語の辞書の発音が載っていて、これがめっぼう面白い。

「ヤロ」は yellow, 「ゲエル」は girl, 「レーロー」は railroad, 「レバ」は river。

ここには8つだけしか載っていないが、1つひとつ実に納得できて、私は今このジョン万次郎の英語辞書をぜひ全部見てみたくてしかたがない。

だが、そうして楽しく英語を学ぼうとしても、各レッスンではきちんと英文法を学んでいかなければならない。

この教科書では各レッスンの中に文法の「Focus」コーナーが設けられ、3～4レッスンごとに「文法のまとめ」というページがあるが、それだけでは足りないのも、やはり補足説明が必要になると思う。が、まあ、このあたりは英語の

先生方の腕の見せ所なのだろう。

文法は英語という言葉のルールを簡潔に説明したものであり、外国人が短期間に英語を学ぶためには必須であり、英語を早く理解するための近道でもある。

だが、楽しく文法を教えるのは非常にむずかしく、文法の説明はしばしば、英語が苦手な生徒や嫌いな生徒を作ってしまうがちである。

私も、『英語脳はすでにあなたの頭の中にある!』(大修館書店)などの本で、日本語との比較を通して何とか英文法をわかりやすく説明する方法をいろいろと考えてきたが、まだまだ十分とは言えない。

ところで、この教科書の全体を通して私がひとつ残念だったのは、この世代の若者たちが最も興味を持つであろう恋愛のトピックが少ないことだ。

I-7 Friendship or Love? で「ラジオ相談に寄せられた恋と友情の悩み」としてほんの少しだけ恋に触れているが、私なら、「I」「II」の両方に、少なくともひとつは『ロミオとジュリエット』ばりの大恋愛の話を入れたい。

リーディング教材として入っている『ミュージック・オブ・ハート』も、実は映画のほうは半分はロベルタ先生のプライベートな恋愛の話である。

“Marriage, it's based on a belief that one person can completely meet another's needs.”

「結婚っていうのは、ひとりの人間がもうひとりの人間の必要を完全に満足させられるっていう確信に基づいているんだ」

“If two people care about each other, they take a chance.”

「二人の人間がお互いに相手を気にかけているなら、賭けてみるものだよ」

こんなセリフの出てくるこの映画をリーディングの授業の前に実際に見てみるのも一興だろう。

(いのうえ かずま・翻訳家/エッセイスト)

Departure Oral Communication I Revised Edition

異文化理解が深まる教科書

海外留学カウンセラー

西澤めぐみ



◆経済のグローバル化に対応するために

私は現在、アメリカを中心とした海外留学のカウンセラーをしています。拙著『世界に飛びだそう！目指せ！グローバル人材——成功するアメリカ大学留学』（ダイヤモンド社、2010）にも記しましたが、経済産業省と文部科学省が2010年に「産官学でグローバル人材の育成を」という報告書を発表しました。少子高齢化の影響で日本市場が縮小されることが予想されるのに伴い、今後は海外市場への進出が増えることが予想され、そのためにはグローバルに通用する日本人の養成が急務となっているのです。

では、グローバルな環境で活躍できるとはどういうことか、ですが、英語をはじめとする外国語でのコミュニケーション能力だけではなく、「異文化理解・活用力」が求められます。*Departure Oral Communication I Revised Edition*（以下*Departure*）には、まさに、Lesson 12: Different Is Fun! で世界の多様な文化を受け入れつつ、独自の文化を発展させてきたアメリカの例が取り上げられていますが、このように、世界には日本とは違うさまざまな文化があることを認識する必要があります。そして自身が持つ価値観とは異なる文化に対して、興味と理解をもって接し、柔軟に対応できる力を養うことが大切です。その第一歩として、*Departure* で取り上げられているようなアメリカ社会の移民・生活様式などについて取り組むことは、大いに高校生の興味を喚起する引き金になるのではないのでしょうか。

◆英語やジェスチャーの背景を意識する

外国語を学ぶにあたっては文法などの言語的知識はもちろんのこと、その言語が話されている地域の文化や歴史的背景を合わせて学んでいくことが大切です。そうすることで、おのずと世界各地で様々な英語が話されていることも受け入れることができるようになるでしょう。Lesson 13: Which “English” Do You Speak? では、アメリカ英語だけではなく、イギリスやオーストラリア、南アフリカなどで使われている英語が取り上げられています。世界各地でそれぞれ特徴のある英語が話されているということを知り、適宜対応できることが、今後ますますグローバル化する世界を生き抜いていくために必須のスキルとなることでしょう。

また、身振り手振り、いわゆるジェスチャーや仕草も大切な要素のひとつです。国が変われば同じ行動や仕草でもまったく意味合いが異なるものもあります。Lesson 10: Why Do You Smile? では、バツの悪い出来事があった際に、照れ隠しに思わず微笑んでしまう日本人の行動や、アメリカ人が机に腰掛けて話をする仕草を、失礼だと受け取る日本人と、リラックスすると受け取るアメリカ人の違いについて触れられています。同じ仕草や行動でも、受け取り方はさまざまです。自分が育ってきた価値観だけを基準に良し悪しを判断するのではなく、常に「○○ではどうなんだろう？」と考える余裕を持っておきたいものです。



◆アジア人としてのアイデンティティ

英語圏の国、例えばアメリカに留学すると、日本人としてのアイデンティティを意識する機会が増えるのはもちろんのこと、自分はアジア人なのだと認識する機会が増えるでしょう。アジア以外の国々の人の中には、日本も中国も韓国もすべてアジアとひとくくりで考え、似たような文化や言語を使っていると思っている人もいます。「アジア人は○○だ」といった断定的な評価を受けることも珍しくありません。特に留学初期にはこういった状況に過敏に反応し、「私は日本人で、○○人とは違う」とついムキになってしまいがちですが、徐々に日本人である自分と同時に、アジア人としての自分というアイデンティティを確立していくことができるようになります。Lesson14: We Are Asians! では近隣諸国の習慣などが取り上げられています。英語を学ぶと言うと、つい英語圏の国のみを意識すれば良いと思ってしまいがちですが、日本と同じく英語を外国語として学ぶアジアの国々に目を向けていくという点で、大変学びの多い章だと感じました。

◆上手に自己主張をする

今まで多くの方を留学に送り出してきました。英語力、学力、性格と人それぞれでしたが、無事に留学を終えて帰国される方には共通点があります。それは、問題が起こった際に自分で主体的に考えて行動できる人、自分の意思を分かりやすく相手に伝えられる人であることです。多様な価値観の中で生活することで、日本で暮らしていた時には思いもしなかったトラブルに巻き込まれることもあります。その時に自分自身の価値観だけにとらわれずに判断ができるか？ そして相手の立場を理解しながらも、自身の意見を主張し、ベストな解決へとつなげていけるか？ こういった能力は留学中だけではなく、将来グローバル化した社会で生活するにあたって必ず役立つことにな

ります。

ですが、沈黙を美德とする日本社会で育ってきた人にとっては、上手な自己主張というのはほとんどの場合、難しく感じるのではないのでしょうか。しかし、アメリカをはじめとする諸外国では、沈黙イコールその問題に関して意見がない、あるいは納得していると捉えられます。つまり、意見があるのであればきちんと主張していかなくてはならないのです。Lesson 16: Express Yourself! では、的確に自身の意見を表現するスピーチの仕方や、相手に対する効果的なインタビュー方法を学ぶことが出来ます。スピーチ能力、インタビュー能力とも一朝一夕で身につくものではありませんが、テキストで取り上げられているタスク（1年でもっとも心に残ったことを発表する）のような練習を積み重ねていくことで、将来必ず役に立つことでしょう。

◆おわりに

今回 *Departure* を読んで、私自身が数十年前、学生時代に学んだ英語教科書とは全く異なるものであることはもちろんでしたが、リスニング、スピーキングのスキルを伸ばすだけではなく、異文化理解を深めることにかかなりの紙幅が割かれていたことが、留学に携わるものとして嬉しい驚きでした。いまや、企業で働く人に限らず、外国人との関わりが避けられない時代となっています。仕事やプライベートでスムーズなコミュニケーションを取るためには、相手がどうしてそういった行動や発言をするのかを理解していく必要があります。そのためには語学以外の背景知識が必要となりますが、その部分にしっかりと触れられている教科書だと感じました。このテキストで学んだ高校生が、将来海外留学を進路の1つの選択肢として考えてくれればと願っています。

(にしざわ めぐみ・

地球の歩き方「成功する留学」チーフカウンセラー)

Genius English Readings Revised

この時代にふさわしい英語教科書

英学者
斎藤兆史



◆最新の英語教育の動向

本論に入る前に、最新の英語教育の動向に触れておきたい。おそらくは多くの英語教育関係者が感じているとおり、昭和後期以来、英語教育界で猛威を振るっていたコミュニケーション中心主義が急速に勢いを失い、逆に文法や読解、さらには訳読の効用が見直されは始めている。英語教育研究の本場イギリスでも、イギリス応用言語学会の長たる Guy Cook が *Translation in Language Teaching* (Oxford University Press, 2010) という本を出し、コミュニカティブ・アプローチを批判しつつ、語学学習における訳の効用を説いている。日本でも、つい先頃、東京大学の菅原克也教授が『英語と日本語のあいだ』（講談社、2011）を出版し、訳読擁護論を展開している。長らく「西洋ではとうの昔に廃れた Grammar-Translation Method を日本ではいまだに用いている」と言われてきたが、西洋の GTM と日本の訳読が別物であることも学問的に証明された（平賀優子『日本の英語教授法史——文法・訳読式教授法存続の意義』、東京大学大学院総合文化研究科博士論文、2007）。

とはいえ、私は日本の英語教育を昭和中期以前の姿に戻せというつもりは毛頭ない。すぐれた英語力を身につけた日本人は、地道に辞書を引きつつ、文法も読解も会話もバランスよく勉強してきたのであり、これからの時代は、伝統的な教授法と新しい教授法研究の成果を融合させ、クラスの特質に応じ（ここが大事）、さまざまな英文を速

読、精読、訳読など、いろいろな方法で読み、発音も聴き取りも会話もみなバランスよく教授するような授業運営が課題となる。

◆全体の印象

そういう意味で言えば、*Genius English Reading Revised* は、これからの時代にふさわしい優れた英語教科書だと言える。実際にはリーディングの授業において読解中心に用いられているのかもしれないが、読解ばかりでなく、音声面の学習もはじめ、多くの課業、発展学習を可能ならしめる仕立てになっている。以下、この教科書のなかで私がとくに評価に値すると思う項目について説明する。

◆高度で多彩な読み教材

まず教科書を開いた瞬間に感じることは、その密度の濃さである。内容の薄い会話文や写真やイラストだらけのコミュニケーション英語の教科書が増えたことを苦々しく思っていた英語教師の立場からすると、久々に頼もしいと思える骨太の教科書だ。内容も多彩で、随筆、説明文、自己紹介文、新聞記事、声明文（しかも、私の大好きなバートランド・ラッセルとアインシュタインが発表した、いわゆる「ラッセル＝アインシュタイン宣言」なのだから、うれしくなってしまうのではないか）、手紙文、さらに、敬遠される傾向にあるとはいえ、本来の読解教材にはなくてはならない文学作品の一節までしっかりと備えている。英文も、高校のレベルからすれば比較的高度であり、なか



なか読み応えがある。

◆発音学習への配慮

これも教科書を開いた瞬間に気づいたことだが、英文中の重要単語が発音記号とともにページの下に記されている。この部分を活用すれば、優れた発音指導ができそうだ。近年、英語ぎらいを作らないようにとの配慮からか、中等教育において発音記号の指導が忌避される傾向にあるが、発音記号などというものは音符と同じで、早いうちに読み方を教えてしまうにかぎる。大学の教壇に立っていて実感するのは、英語教育の現場でコミュニケーションだ、オーラルだと騒いでいるにもかかわらず、/l/と/r/、/s/と/z/など、基本的な音の区別がつかない学生がむしろ増えていることである。そのような学生に聞いてみると、中高できちんとした発音指導や音読指導を受けていないという。発音・音読指導は、できるだけ早いうちから始めてほしいものだ。

◆聴解学習への配慮

各課の教材を読み終わったあとには、それについての生徒の理解度を確認し、さらに発展的な学習をうながすため、Comprehension, Keys to Reading, Vocabulary という3項目にわたる問題が設定されている。そして、Comprehensionの最初には、読み教材に関する英語を聴いて答える聴解問題がかならず設けられている。設問自体は、正誤問題、穴埋め、選択問題など、さまざまな形式を採っているが、ある内容に関する英語を単に目で追わせるだけでなく、音声でも確認させるためのすばらしい工夫である。

◆語彙・文法学習への配慮

また、読み教材が印刷されたページの傍注の部分では本文中の重要語句が説明されている。さらに、Keys to Readingの項目では、次項で述べる和訳に加え、文章構成、句読法、分詞構文をはじめ

めとする文法規則が、Vocabularyの項目では、派生や造語の規則などが丁寧に解説されている。最近、多読を中心に据えた教授法のなかに語彙や文法の学習を軽視したものが見受けられるが、やはり学習のバランスを考えた場合、読解と語彙・文法の学習は組み合わせて行なったほうがいい。

◆和訳の効果的な利用

そして、本稿の最初に述べたこととの関連において大いに評価したいのは、この教科書が和訳を決して軽視していないということである。先述のKeys to Readingの項には、かなり長い英文の全訳、部分訳が課業として設定されている。日本では、しばらくの間、「英語の授業なのだから日本語を使わないほうがいい」との素人考えが蔓延していたが、ある程度学習者言語を用いたほうが語学学習が効果的に行なわれることは、最初に紹介したCook (2010)でも論じられている。最初から最後まで訳だけの授業ではまずいが、日本の中教育の英語の授業のなかには、かならず英文和訳や訳読の部分がないとはいえない。

◆伝統的教授法と最新の教授法理論の融合

この他、各課の最初に設定された設問を利用すれば英会話学習もできるであろうし、この教科書を素材として多くの発展学習が可能である。また、伝統的な教授法・学習法のみならず、最新の英語教育研究や応用言語学の研究成果を応用した課業もある(ただし、個人的には、「パラグラフ・リーディング」や「スキミング」などについて、高校生にさらに分かりやすい表現での説明が必要であると感じている)。とにかく、応用範囲の広い教科書であり、これが本来の英語教科書である。読解用の教科書としてのみ用いるのはあまりにもったいない。

(さいとう よしふみ・東京大学教授)

Genius English Writing Revised

厳選されたモデルでこそ 英作文の力は身につく

塾・予備校・高校講師

竹岡広信



東京大学や京都大学を受験する学生の英作文を採点していると愕然とすることがある。とにかく基本的なミスが多すぎる。People is [○are]..., He have [○has]..., come back Japan [○to Japan], one of the most important thing [○things]...など。成績が上位者でもこのような状態だから、あとは推して知るべしである。また、「仕事は人生最大の遊びであり、仕事で楽しめる人は幸福である。」[宮城大学入試問題, 2010] を作文させてみると、日本語に引きずられて、前半を Work is the greatest play [○pleasure]. としてしまう者も相当多い。このような状況下での writing の指導とは「基本の徹底」につきると思われる。「英文解釈のレベル」なら簡単だと思えるものでも、作文となるとそうはいかない。そこで、Genius English Writing Revised (以下 Genius Writing) を拝読し、その「どこにこだわりを感じたか」と「私ならこう使う」の2点を述べたいと思う。

◆ 1つの物語を形成している構成

Part 1 の Unit 1～3 では、各 Lesson が、純子とブライアの二人を中心に据えた英文から始まる。そしてそれが、Lesson 1 から24まで、ストーリー仕立てになっていて、まるで1つの物語のように話が展開していくため興味深い。また、それぞれの英文形式も、Eメール、留学志望願書、日記、礼状、電話など多岐にわたり、英語の様々な形式に触れることができる。高校生にとっても身近な話題だけに、「自分も書いてみたい」

という意欲を向上させる英文だと思われる。

たとえば Lesson 22 に登場する礼状は以下のような文面である。

ジョンストンご夫妻へ

昨晩はすばらしいさよならパーティーを本当にどうもありがとうございました。楽しかったばかりでなく、思い出に残るものとなりました。私があなたの方に対してどんなに感謝しているかは言葉では言い尽くせません。

私は明日ここを立ちます。あなた方のご親切は決して忘れません。横浜からシアトルでまたお会いできることを願っております。日本に帰ったらブライアンにあなた方からの伝言を必ずお伝えします。

敬具

純子

Dear Mr. and Mrs. Johnston,

Thank you very much for the wonderful farewell party last night. It was not only enjoyable but also memorable, and I just can't tell you how grateful I am to you.

I'm leaving here tomorrow. I'll never forget your kindness. I hope we can meet again either in Yokohama or in Seattle. I'll be sure to give your message to Brian when I get back to Japan.

Sincerely yours,

Junko

無理のない平易でかつ自然な英語で書かれているので、各 Lesson の巻頭の英文を全文「音読筆写」させて暗記させてしまうのが効果的であろう。このようなレベルの英文は、読解の観点から



は何でもないように思えても、いざ発話したり作文したりすると、きっちり運用できる高校生は少ない。「ネイティブがよく使うカッコイイ表現」や「使用頻度の低い受験によく出る表現」などを追いかけても、英語を運用できるようにはならない。この教科書のような英文モデルこそ徹底的にマスターしたい。

◆基本例文の工夫と厳選

英作文の訓練は、一見平易に見える英文を徹底的に訓練することで身につくものである。*Genius Writing* の Study Points や Exercises に散りばめられている英文は、英作文の急所になっているものも多い。以下に実際の例を挙げて検証してみたい。また、それぞれに文法説明があるが、出しゃばらない程度で、本当に大切な事項に絞ってあるのがよい。(特に注がないものは全て Part 1 からの抜粋。)

[Lesson 1] あの店では高い服を売っています。

→ They sell expensive clothes at that store.
この日本語で They を主語にできる高校生は実力十分。

[Lesson 2] 彼らはいつ戻ってくるのか私に言いませんでした。

→ They didn't tell me when they would return.
簡単そうだが、語順と時制の一致をクリアできればたいしたもの。

[Lesson 8] いい映画だよ。見たほうがいい。

→ It's a great movie. You should see it.

「いい」は、good では弱い場合がある。また忠告は should で表すのが普通。

[Lesson 18] その店は買い物客が子どもを預けておくことができる部屋があります。

→ The store has a room where shoppers can leave their children.

[同上] 私は今でも彼らが結婚した日のことを覚えています。

→ I still remember the day when they got

married.

先行詞につく冠詞の識別を確認するのによい。

眺めているだけでは、それぞれの英文の良さは分かりにくいと思われる。例文や Exercises を小テストの形式で英作文させてみて、その場で教科書で確認させるというのが面白そうである。

◆パラグラフ・ライティングの基本をステップバイステップで指導

Part 2 ではパラグラフ・ライティングの基本を様々な素材をもとに書かせるように構成してある。題材は「尊敬する人」「忘れられない経験」「品物の説明」「修学旅行の是非」「男女平等について」など、奇をてらわない、馴染みのある題材で生徒も書きやすそうである。しかもたとえば Lesson 4 では以下のような誘導がしてあり、自然と書き方を身につける工夫がしてある。最初は、何から書いていいか分からないという生徒が多いことを考えると親切な誘導であろう。

1. Is there anybody you admire?

2. If so, who?

If not, write about someone you like.

3. What does the person look like?

4. What is the person like?

5. Why do you admire / like that person?

◆まとめに

Genius Writing の素晴らしさは、以上に述べた通りである。しかし、この本の良さを最大限に引き出すのはもちろん現場の教師である。たとえば、この本を用いて生徒にエッセイを書かせた場合、それをしっかり採点するという重労働を経ないと生徒の力を伸ばすことはできまい。通り一遍のクラス授業だけでは、この本を苦心して作られた執筆者の先生方にも申し訳が立たない。皆で頑張りたいものである。

(たけおか ひろのぶ・

竹岡塾／駿台予備学校／洛南高等学校講師)

大修館書店の指導資料・副教材のご案内

■教科書準拠指導資料・副教材

◎は生徒用副教材／定価＝本体価格＋税5%

教材名	判型	定価(税込)
■Genius English Course I・II Revised [英I 046] [英II 049]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual/〈Q&A方式〉教科書情報資料集/評価問題集/Teacher's Book/指導用CD-ROM)	B5判	15,750円
指導用パワーポイントCD-ROM		7,350円
指導用音声CD (I・4枚組/II・5枚組)		I・12,600円 II・13,650円
◎予習ノート	B5判	500円
◎ワークブック Standard	B5判	500円
◎ワークブック Advanced — 大学入試対策編 (CD付)	B5判	980円
◎生徒用音声CD (I・1枚/II・2枚)		I・1,050円 II・1,575円
■Captain English Course I・II Revised [英I 047] [英II 050]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual/言語活動集/評価問題集/Teacher's Book/指導用CD-ROM)	B5判	14,700円
指導用音声CD (3枚組)		12,600円
◎学習ノート	B5判	500円
◎生徒用音声CD		1,050円
◎単語・文法練習シート	B5判	—
■Departure Oral Communication I Revised Edition [オI 026]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual/言語活動集/評価問題集/Listening Challenge 補充問題集/Teacher's Book/指導用CD-ROM)	B5判	16,800円
指導用音声CD (6枚組)		14,700円
◎学習ノート	B5判	500円
◎生徒用音声CD (1枚)		1,050円
■Genius English Readings Revised [英R 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual/評価問題集/Teacher's Book/指導用CD-ROM)	B5判	15,750円
指導用音声CD (4枚組)		12,600円
◎ワークブック Standard	B5判	500円
◎ワークブック Advanced	B5判	500円
◎生徒用音声CD (2枚組)		1,575円
■Genius English Writing Revised [英W 031]		
教授用指導資料 (Teacher's Manual/評価問題集/ディクテーションカード集/指導用CD-ROM)	B5判	15,750円
指導用音声CD (3枚組)		12,600円
◎ワークブック	B5判	500円

* ご採用見本をご希望の場合は、大修館出版販売本社（電話：03-3934-5110[代]）までご請求ください。

■副教材（価格は税込み定価）

○Genius English Grammar（岡田伸夫編著・A5判・600円）

○Genius English Grammar Teacher's Manual（B5判・2,600円）

文法事項の定着をはかり、さらに大学入試レベルまでをカバーしています。指導用 Teacher's Manual では、補足例文、授業で使える小テスト用補充問題もご用意しました。

○カラーワイド英語百科—The English Odyssey—（大谷泰照・堀内克明監修・B5判・900円）

英米文化の常識から環境問題まで、英語を学ぶ際に知っておきたい背景の知識です。手紙の書き方や語源など、「英語」にまつわる知識も満載。

○改訂新版 ジーニアス英単語2200（B6判・1,050円）

多様化した最近の大学入試の分析を踏まえ、合格するために必要な単語を選定し、そのすべてに例文を付した最強の単語集。

○ジーニアス英単語 Step 38（B6判・1,050円）

大学入試と高等学校英語教科書での出現頻度から、名詞、動詞、形容詞・副詞の3つのカテゴリーを、それぞれ Step 1～Step 38 に分けて配列。動詞のみならず形容詞、副詞にも例文を付しています。発音・アクセント問題頻出単語はコラムとして収録。会話文対策も万全。

○ジーニアス英熟語1000 改訂版（新書判・1,050円）

試験で「どう出題されるのか？」にこだわり、中学～入試レベルの英熟語を収録しました。

■英語教科書サイト

GCD English Teachers' Room

- ・各教科書の「シラバス」「観点別評価規準例」（ダウンロード可能）
 - ・教材リンク集
 - ・大学入試問題（Departure OC I, Genius English Writing）
 - ・学会・催し情報
 - ・『GCD 英語通信』バックナンバー
- などをご紹介します。



URL: <http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

〈投稿〉

シャーロック・ホームズ作品からの活用 —— Genius I・II の補強教材として



犬飼建治

はじめに

筆者は、1, 2 年次の英語 I・II の教科書 *Genius English Course I Revised* と *Genius English Course II Revised* で学習する英語表現、文法事項、フレーズなどを定着させるために、長い間愛読しているシャーロック・ホームズ作品を補強教材として使ってきたので、その様子を紹介したいと思います。

シャーロック・ホームズ作品について

ご存知の名探偵シャーロック・ホームズが活躍して解決する数々の事件が、相棒のワトソン博士によって記録されています。これがシャーロック・ホームズ物語です。作品は長編 4、短編 56 で、合わせて 60 の事件を扱っています。ホームズファンはこれを正典 (Canon) と呼んでいます。

ホームズ物語を読んで思うことは、原文は高校で習う文法で十分に読むことができ、決して難しいものではないということです。また高校で履修する構文、文法事項、熟語などが大量に豊富に含まれています。英文は、概して平易で、とくに会話のところなどは英文が生き生きしているように思われます。

ホームズ作品が、今日でも多くの教科書で採用されているのはこういう理由からではないかと推測しています。事実、*Genius II* の Reading 2 で、*'The Blue Diamond'* という作品が採用・紹介されています。なお、原書では *'The Blue Carbuncle'* となっています。

実用例の紹介

私は、教科書の本文、[Grammar]、[Useful Expressions] で学習する英語構文・文法項目などと同じ表現内容・項目をホームズ作品から引用して、これを使って反復、応用練習して理解を深めることを狙っています。ここでは、ホームズ作品の中から、代表的な短編である「ボヘミアの醜聞」(*A Scandal in Bohemia*, 1891) と「青いガーネット」(*The Blue Carbuncle*, 1892) の 2 作品から例文を抜き出し、紹介します。(例は教科書の英文、[SH] はホームズ作品の英文、太字は引用者による。)

例 1 ○形式主語 it のまとめ

• It's difficult to learn English well in a short time. (*Genius II*, p. 77)

[SH]

'I have no data yet. **It is a capital mistake to theorize** before one has data. Insensibly one begins to twist facts to suit theories, instead of theories to suit facts. But the note itself. What do you deduce from it?'

(*A Scandal in Bohemia*, p. 12)

[SH]

'You will excuse me,' said Holmes blandly, 'but I could not help overhearing the questions which you put to the salesman just now. I think that I could be of assistance to you.'

'You? Who are you? How could you know anything of the matter?'

'My name is Sherlock Holmes. **It is my business to know what other people don't know.**'
(*The Blue Carbuncle*, p.159)

例2 ○関係代名詞の非制限的用法

・I respect my father, who is fair even to people he dislikes. (*Genius I*, p.101)

SH

A blow was struck, and in an instant **the lady, who had stepped from the carriage, was the centre** of a little knot of flushed and struggling men who struck savagely at each other with their fists and sticks.

(*A Scandal in Bohemia*, p.26)

例3 ○假定法を含む重要表現

・They treat the girl as if she was their daughter. (*Genius I*, p.137)

SH

'On the contrary, my dear sir,' cried the King. 'Nothing could be more successful. I know that her word is inviolate. The photograph is now as **safe as if it were in the fire.**'

(*A Scandal in Bohemia*, p.32)

例4 ○假定法過去

・If I were not busy, I would go to the concert with you. (*Genius I*, p.125)

SH

I am not retained by the police to supply their deficiencies. **If Horner were in danger it would be another thing**, but this fellow will not appear against him, and the case must collapse.

(*The Blue Carbuncle*, p.164)

例5 ○挿入表現

・The Johnsons, as you probably know, are going to the States this December. (*Genius II*,

p.91)

SH

The facts are these. About four o'clock on Christmas morning, Peterson, **who as you know is a very honest fellow**, was returning from some small jollification, and was making his way homewards down Tottenham Court Road.

(*The Blue Carbuncle*, p.145)

例6 ○S+V+C, ○関係代名詞の whose

・Please stay seated during my speech.

(*Genius II*, p.117)

・That's the man whose house burned down.

(*Genius I*, p.28)

SH

Sherlock Holmes looked deeply chagrined. He drew a sovereign from his pocket and threw it down upon the slab, turning away with air of a **man whose disgust is too deep for words.**

(*The Blue Carbuncle*, p.157)

おわりに代えて

教科書にはさまざまな制約があり、なかなかすぐには生徒に面白いという印象はあたえられないかもしれませんが、一方で、教科書は学べき最低項目・内容はきちんと整理されており、大変ありがたい教材です。そうしたなかで、少しでも生徒たちに学習意欲を起こさせるにはどうすればいいのか。その工夫は教師にかかっていると思います。

筆者はシャーロック・ホームズ作品を教科書の補強教材としてよく利用します。生徒たちに教科書で学んだことをホームズ作品で補強させると同時に、英語を学ぶ楽しさに気づき、さらには作品を鑑賞してもらえればと、願っています。

(いぬかい けんじ・兵庫県立芦屋高等学校教諭)

〈投稿〉

要約文を書く力をつける英語 I の指導

—— Genius I を使って



石本祐子

はじめに

Genius English Course I を使用して高校1年生の授業を担当していたころ、高校生になって半年以上経つのに、複数の意味を持つ単語の意味から、どう考えても文脈に合わない意味を生徒が選択するのが気になりだした。もちろん、生徒の英語力不足、一般教養不足も原因であろうが、単なる訳読式であると、1文1文にしか注意が向かないのも原因であろうと思われた。

そこで、筆者は、文脈を意識した英文の読みを指導するために「読んだりして得た情報について整理して書く」ことを目標にした授業を行った。以下にそれを紹介したい。なお、ここで紹介する“My Brother’s Keeper”は、*Genius English Course I Revised* にも掲載されている。

Bottom-up 方式から Top-down 方式へ

いわゆる読解には大きく分けて、「単語→句→節→パラグラフ」と進んでいく Bottom-up 方式と、テキスト全体やパラグラフ理解に重点をおいて読み進む Top-down 方式の2つがある。筆者は、レッスン1からレッスン9まで Bottom-up 方式で学んだ生徒に Top-down 方式の読解を行わせ、要約文を書くことを最終目的とする授業を試みた。

まず、1レッスン全体の流れを把握させるために、教科書指導資料の CD-ROM を利用して、B4 の用紙に、レッスン10 “My Brother’s Keeper” の全文を編集し直し、段落ごとに番号をつけて印

刷した。(このように編集し直すと、生徒が何度か受験している模擬試験の長文問題の量とほぼ同じであり、大学受験を乗り切るためにも、1レッスン分の英文を一気に読む力が必要なことを納得したようだ。)そして、もう1枚、本文に付けた段落番号に付合するように、番号をつけた欄を付けた B4 のまとめ用紙をつくって生徒に配った。

このレッスンは作者の経験をもとにした物語文なので、最初の時間に教科書の脚注、挿絵などを参考に、わからない単語があっても最後まで本文を通読させた。また、タイトルについても、話を読み終わった時に意味するところがわかればよいことにした。そして、2度目の読みの時は、段落毎に、登場人物と大まかな出来事の流れをまとめさせるようにした。日本語の短文でまとめるのが原則であるが、英語が苦手な生徒には、大事と思われる単語を抜き出すだけでもよいことにした。

このようにして、2度の通読を終わらせた。段階で、わかったことを発表させ、全員で本文の流れを確認した。その時の発表に関しては、あまり厳密な答えを要求しないで、大まかな流れをつかみ、これから読む話がどのような場面で、どのような登場人物がいて、どういう流れになっているのかということに段落を意識させながら関心を向けるようにした。また、自分にとってどこが理解しがたい箇所であるかも認識させるようにした。

精読とまとめ

この方式を導入するまで、文法の説明を中心とした訳読を行っていたので、訳読は続ける事にし

た。しかし、段落を意識させるために、1段落読んだら必ずまとめ用紙に立ち戻り、自分のまとめを点検させ、1回目の要約で不十分な所を補足させた。このようにして、最後まで本文を読んだ。

本来ならばここで、すぐに英語の要約文を書かせたいところであるが、いきなりは無理だろうと思われたので、まず、日本語で800字以内の要約文を書かせることにした。レッスン10は、作者が“I”という一人称で回想するという形になっているので、「筆者は」という形で要約をするように指示した。また、何でもかんでも書くのではなく、話の流れが要約文を読む人に伝わるように心がけるように指示した。

日本語の要約文を書かせて点検した後、いよいよ英語の要約文に取りかかったが、日本語の要約文を英訳するのではなく、教科書の本文をなるべく利用するようにさせた。まず、The authorで文を始めると、英語では人称が変わり、動詞の形や代名詞が変わることに注意しないといけないが、これは生徒にはなかなか大変な作業であった。これには、やはり、英語の苦手な生徒ほど悪戦苦闘していた。机間指導でこの種の誤りを見つけるたびに直させたが、同じ誤りを繰り返す生徒が多かった。

発表

大変ではあったが、何とか要約文を完成させた。英文をあまり厳密に点検すると、英語が得意でない子の意欲を殺ぐ恐れがあるので、ひどい文法的間違い以外は、生徒の書いた文を尊重し、要約文が完成した生徒から、発表練習に移った。ひとりずつ生徒を呼び、英文を読ませ、発音、イントネーション等の注意をした。

その後、いよいよ1人1人が全員の前で、自分の要約文を発表することになった。なるべく原稿を見ないで発表するように指示したが、最初ということもあり、ほとんどの生徒が、原稿を見て発表していた。

今後に向けて

段落を意識した Top-down 方式を一部取り入れて1レッスンの授業はどう変わったか。

まず、今までの訳読中心の授業よりも5時間ほど時間が多くかかってしまった点は反省しなければならない。しかし、レッスン10は仮定法過去、仮定法過去完了が新出の文法事項であるが、「現在の事実の反対の仮定」、「過去の事実の反対の仮定」ということが、文脈を意識した読みの中では生徒が理解しやすいようであった。また、絶えず段落に立ち戻ることで、話の流れが否が応でも生徒の頭の中に入りやすく、従来のやり方のときよりも、話の流れを忘れることがなくなった。さらに、段落のまとめをしなければならないので、生徒は自ずと英文を何度も読まなければならなくなった。

本来は、要約文の発表のみならず、それに対する自分の意見も英語で発表させたいところであるが、まだ、そこまでは生徒に要求していない。

次のレッスン11も同じ方式で授業を進めたが、やり方のコツをつかんだせいか、段落のまとめにかかる時間が減った。

また、生徒同士の合評も取り入れたし、2回目の発表時、2名の生徒が原稿を見ないようにして前を向いて堂々と発表してくれたのは嬉しかった。また、英文の要約文に前レッスンよりも工夫する生徒が増えた。生徒は基本的に向上心を持っていることを改めて知った。

今後文単位の理解に止まることのない英語Iの授業を目指し、工夫していきたい。教科書があるとしても、全部教えることを目標としがちであるが、進度に捕らわれることなく1レッスンを色々な角度から迫って行く方法もあるのではと思うようになった。

(いしもと ゆうこ・旭川明成高等学校教諭)

英語語彙指導の 実践アイデア集

相澤一美・望月正道 編著

A5判 286pp.
本体2,400円＋税

清水伸一



小・中・高・大の教育現場で生かす語彙指導ノウハウ

本書の内容を一言でいうと、語彙習得を目標に置いた、教室での具体的な活動事例の紹介である。そして、紹介されているどの活動も理論的な背景に裏付けされている。それは、本書の執筆陣が長年にわたり語彙習得の研究に携わってこられた教育者の方々だからである。理論と実践の両面から十分に吟味された内容は、教室における教師たちの悩みに、的確に答えてくれる1冊となるであろうと期待される。

まず、本書は小学生から大学生までの学習者をカバーする。そして、活動の種類によって推奨される学習者の層が各実践例の前に示されている。たとえば、「フォニックスの導入」という例では、学習初期～中期の学習者を対象としており、小学校後半から高校前半までの実践が推奨されている。「英英辞典を利用した語彙力の増強」という実践例では、上級の学習者が対象となり、高校後半から大学での実践が推奨されている。ただ、全体的には中学・高校の学習者を対象とした実践が多く、小学校の現場での実践例は少ない。

本書の構成は、全4章プラス付録という形を取っている。中心となる章は、教室での実践例を集めた第II章、自律学習に重点を置いた第III章、授業評価とともに学習者の習熟度評価を扱った第IV章である。付録では、語彙指導の理論的背景を、8つのTipsにまとめて解説している。さらに、本書にはCD-ROMが付属していて、本書の内容と連動した語彙指導ワークシートや、学習者の習熟度を測定できる語彙サイズテスト(PC版・筆記版)等が含まれている。

第II章の実践例は、語彙指導の目的という観点から、「導入のための実践例」「定着のための実践例」

「発展のための実践例」「予習・復習の指導例」の4つに細分化されている。また、使用される技法も、フォニックスの応用、オーラル・イントロダクション、ペアワーク、ビンゴ等のゲーム形式、単語カードの活用、形態素認識、単語間ネットワーク構築、予習・復習プリント作成法と多岐にわたっている。たとえば、高校では大学入試を控えて飛躍的に語彙サイズを広げる必要があるが、そのための方策として、形態素認識と単語間ネットワークの考え方に即して、接辞、多義語、同義語、反意語、コロケーション等をどのように導入していけばよいか丁寧に説明されている。

第III章の「自律した語彙学習のために」では、主に「辞書・単語集の利用」と「多読を通しての語彙修得」が紹介されている。また、記憶定着の学習では、学習者ごとに好まれる学習方法が異なるため、様々な状況に応じた学習計画をアドバイスしてくれている。

第IV章は、語彙の評価(語彙の定着率の確認)を扱っている。前半は、授業内で行う、各単元やコース終了時における定着率の確認を紹介している。後半では、「語彙サイズテスト」を紹介している。これは、教科書や授業の内容に関わらず、学習者の語彙サイズの大きさ(定着している受容語彙の数)を測定するテストで、一般的に「望月テスト」として日本の教育や研究の現場でよく使われているものである。本書にはその第1～第3版が収録されている。前述したように、PC版(コンピュータプログラムで、語彙サイズを自動判定してくれるもの)と印刷用の筆記版(ワード文書)がCD-ROMに入っている。望月テストは、7,000語からなる語彙リストを1,000語刻みで分類したものがベースとなっていて、中学校修了程度で1,000語、高校修了程度で3,000語というのがおおよその目安である。このテストの結果は、英語全般にわたる学習者のスキルと関連性があると言われている。つまり、このテストを簡便な習熟度テストとして用いたり、学習者個々の状況に合わせてどのレベルの語彙を学習すべきかを助言するために用いる等、今までにない学習活動につなげることが可能である。また、7,000語から成るテストなので、教師としてもぜひチャレンジしたいところである。

(しみず しんいち・安城学園高等学校教諭)

英語教育21世紀叢書

英語教師のための コンピュータ活用法

濱岡美郎 著

四六判 240pp.

本体1,800円＋税

亀山太一



コンピュータ好きの英語教師には垂涎の書

英語教師のみならず、教育現場におけるコンピュータの利用は好むと好まざるとにかかわらず必須となっている。もちろん、コンピュータを使うことの利点を挙げればきりがないが、一方では、コンピュータに「使われて」いるという感覚を持つ教師も少なくない。簡単な書類を作るのに、なまじコンピュータを使っただけに余計な時間を取られてイライラしたという経験は、多くの人が持っているのではないだろうか。

とはいえ、コンピュータを利用することで作業時間が大幅に短縮できたり、コンピュータなくしては実現不可能な画期的な教材作りや授業形態が可能になったりすることも事実である。要は、コンピュータという「道具」の特性とその可能性を熟知して、それを使いこなすことが、コンピュータに「使われ」ないようになるための第一歩なのである。

本書は、コンピュータを利用した授業の know-how や、教材作りの how-to を求める人に向けて書かれたものではなく、「コンピュータで何ができるか」を網羅的かつコンパクトにまとめたものである。ビジネスソフトの定番であるワード、エクセルをはじめ、テキストエディタ、デジタル辞書、OCR、OMR、ホームページ作成、音声・画像データの編集、LMS (Moodle)、メール、オンラインストレージ、データベース、機械翻訳、テキスト処理、文献検索、コーパス、統計処理、アウトラインプロセッシング、ブログ、TeX、パワーポイント、BASIC プログラミング…と、実に幅広く「コンピュータの使い道」を紹介している。それぞれの項目の解説も、スクリーンショットを多用して、実際の使い方がイメージしやすくなっ

ている。

本書は、コンピュータが好きな人、あるいはコンピュータの知識を深めたいと思っている人には、非常に興味深く読める本である。ただ、本書はいわゆる入門書のたぐいではないので、コンピュータの初心者にとっては、理解しがたい、あるいは不要な情報（のように見える部分）があることは否めない。たとえば、本誌の主な読者である中高の英語教師にとっては、Moodle のインストールやサーバー管理、あるいはアクセスや MySQL といったデータベースを扱う機会はほとんどないのではないだろうか。また、本書の後半で解説されている SPSS や TeX、さらには sed や AWK といった、かなり限定された利用法についても、(個人的には興味深いのだが) やはり多くの英語教師にとっては「雲をつかむような話」になっている可能性が高い。むしろ、ワード、エクセルやエディタなどの一般的なソフトウェアを使って同様の処理をする方法を紹介してもらえるとありがたかったと思う。

ただ、著者も述べているように、本書は、これを読んで興味を持った活用法についてはマニュアルなどを参考にして自分で取り組むという前提で書かれているので、上のような批判は当たらないかもしれない。しかし、えてしてコンピュータ関係のマニュアルというのは、本書以上に難解なものが多いので、できれば本書の内容を吟味した上で、初心者向けに必要な情報を提供するような「続編」が望まれるところである。

本書は、「英語教育におけるコンピュータの活用」をテーマにした本としては、見た目のボリューム以上に豊富な情報を提供してくれるものであるが、読者にもそれなりの基礎知識が求められる。とはいえ、本書の著者自身も英語教師であり、コンピュータの専門家ではない。にもかかわらずこのような本が書けるという事実は、コンピュータに「使われて」いる英語教師にとっては福音であろう。すなわち本書は、「普通の英語教師」でもこれだけコンピュータに習熟することが可能であることを示唆するものであり、コンピュータを敬遠している英語教師にとっては、「コンピュータを道具として使いこなす英語教師」の、1つのモデルを示していると言える。

(かめやま たいち・岐阜工業高等専門学校教授)

大修館書店の本

◆「授業内多読」「授業内多聴」がやる気を引き出す！

英語多読・多聴指導マニュアル

高瀬敦子＝著

(四六判・248頁・定価1,890円)

◆リーディング指導の悩みに答える

英語リーディング指導ハンドブック

門田修平・野呂忠司・氏木道人＝編著

(A5判・426頁・定価3,150円)

◆2008年・2009年告示「学習指導要領」に対応

改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法

望月昭彦＝編著 久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司＝著

(A5判・304頁・定価2,415円)

◆「ことばの謎」に迫るガイドブック！

入門 ことばの世界

瀬田幸人・保阪靖人・外池滋生・中島平三＝編著

(B5判・176頁・1,890円)

◆表現の「揺れ」から見えてくる英語の未来像

英語は将来こう変わる

鈴木寛次・三木千絵＝著

(四六判・208頁・1,575円)

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震において、被害を受けました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興を祈念しております。

株式会社 大修館書店

◆営業便り◆

▶新学期も始まり、先生方におかれましてはご多忙の毎日と存じます。今年も数多くの高等学校より弊社発行の学習辞典および副教材をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。内容などに関しまして、何かお気づきの点がございましたら弊社担当者および弊社宛てにご連絡いただければと存じます。

▶まもなく平成24年度用教科書見本ができあがります。弊社営業担当者が直接高等学校へご案内に伺います。ご多忙中とは存じますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

▶この原稿を書いている最中には都心で久方ぶりの積雪となりました。今年の寒さは特に厳しく、冊子が発行される新緑の頃を待ち遠しく思っています。

◆編集後記◆

▶今号の特集では、実際に英語を使って活躍されている著名な方々に、小社の教科書を読んでいただき、忌憚ないご意見をいただきました。

▶原稿をいただくまでは、正直なところ少しハラハラして、内容についてお叱りを受けたらどうしようと思っていたのですが、それぞれの教科書について、まさに編集の意図を読み取っていただき、過分なお褒めの言葉をいただきました。実際の経験に基づいて、教科書のこの部分が役立つ、と具体的に書いていただき、これからの教科書作りにとりましても、とても参考になりました。

▶小社の教科書で学んだ生徒さんたちが、将来、今回ご執筆くださった先生方のように、英語を使っていろいろな場面で活躍してくれたら、と願わずにいられません。(P)



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページ「燕館」には別館「G.C.D. English Teachers' Room」を設け、小社教科書の内容をご案内しているほか、英語の先生方に役立つ様々な情報を提供しております。ぜひご活用ください。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

Genius・Captain・Departure

英語通信

第48号

2011年4月25日発行

(年2回発行)

編集人：◎「G.C.D.英語通信」編集部

発行人：鈴木一行

発行所：株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話(03)3868-2293(編集部)／(03)3868-2651(販売部)

【出版情報URL】<http://www.taishukan.co.jp>／【振替】00190-7-40504

印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

図本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。